

**IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE**

**ATTORNEY DOCKET NO. 086142-0573**

03914 U.S. PTO  
10/632842  
08/04/03

Applicant: Shinji HAYASHI  
Title: AIRBAG APPARATUS FOR FRONT PASSENGER SEAT  
Appl. No.: Unassigned  
Filing Date: 08/04/2003  
Examiner: Unassigned  
Art Unit: Unassigned

**CLAIM FOR CONVENTION PRIORITY**

Commissioner for Patents  
PO Box 1450  
Alexandria, Virginia 22313-1450

Sir:

The benefit of the filing date of the following prior foreign application filed in the following foreign country is hereby requested, and the right of priority provided in 35 U.S.C. § 119 is hereby claimed.

In support of this claim, filed herewith is a certified copy of said original foreign application:

Japanese Patent Application No. 2002-259074 filed September 4, 2002.

Respectfully submitted,

August 4, 2003  
Date

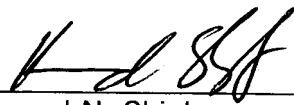
FOLEY & LARDNER  
Customer Number: 22428



22428

PATENT TRADEMARK OFFICE

Telephone: (202) 672-5490  
Facsimile: (202) 672-5399

  
Howard N. Shipley  
Attorney for Applicant  
Registration No. 39,370



Shinji Hayashi  
86142-573

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2002年 9月 4日

出 願 番 号

Application Number:

特願2002-259074

[ ST.10/C ]:

[ JP 2002-259074 ]

出 願 人

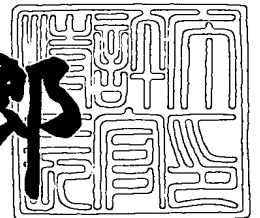
Applicant(s):

タカタ株式会社

2003年 6月24日

特 許 庁 長 官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2003-3049653



【書類名】 特許願

【整理番号】 P-10701

【あて先】 特許庁長官殿

【発明者】

    【住所又は居所】 東京都港区六本木 1 丁目 4 番 3 0 号 タカタ株式会社内

    【氏名】 林 信二

【特許出願人】

    【識別番号】 000108591

    【氏名又は名称】 タカタ株式会社

【代理人】

    【識別番号】 100086911

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 重野 剛

【手数料の表示】

    【予納台帳番号】 004787

    【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

    【物件名】 明細書 1

    【物件名】 図面 1

    【物件名】 要約書 1

【ブルーフの要否】 要



【書類名】 明細書

【発明の名称】 助手席用エアバッグ装置及びその設置構造

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 少なくとも 1 対の対向辺を有したコンテナと、折り畳まれて該コンテナ内に収容されたエアバッグとを有し、

前記 1 対の対向辺のうち的一方にインストルメントパネルへの係止部が設けられ、他方にインストルメントパネルへの固定部が設けられている助手席用エアバッグ装置において、

該固定部は、互いに略平行な片体を有しており、

該片体同士の間、インストルメントパネル裏面から延出した壁状体が挿入されて連結可能とされていることを特徴とする助手席用エアバッグ装置。

【請求項 2】 請求項 1 において、該片体は、前記コンテナの 1 対の対向辺同士を結ぶ方向であって、且つ前記コンテナから離反する方向に延在していることを特徴とする助手席用エアバッグ装置。

【請求項 3】 請求項 1 又は 2 に記載の助手席用エアバッグ装置をインストルメントパネルの裏側に取り付けてなる助手席用エアバッグ装置の設置構造。

【請求項 4】 請求項 3 において、該助手席用エアバッグ装置は請求項 2 に記載の助手席用エアバッグ装置であり、

前記壁状体は、前記インストルメントパネルの裏面から起立する起立壁と、該起立壁の起立方向先端からインストルメントパネルと略平行方向且つ前記コンテナから離反する方向に延出した脚片とを有しており、

該起立壁には、一方の前記片体が挿通された開口が設けられており、

該脚片が片体同士の間、挿入されていることを特徴とする助手席用エアバッグ装置の設置構造。

【請求項 5】 請求項 4 において、該片体同士の間、挿入された脚片が、該片体及び脚片を貫くボルトによって該片体に連結されていることを特徴とする助手席用エアバッグ装置の設置構造。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】



【発明の属する技術分野】

本発明は、自動車の助手席乗員を保護するための助手席用エアバッグ装置及びこの助手席用エアバッグ装置をインストルメントパネルの裏側に設置するための助手席用エアバッグ装置の設置構造に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来の助手席用エアバッグ装置は、エアバッグが折り畳まれて容器状のコンテナ（このような容器状のコンテナを「リテーナ」と称することもある。）内に収容され、このコンテナ（リテーナ）の前面開口をリッドで覆った構成となっている。このコンテナには、エアバッグを膨張させるためのインフレーター（ガス発生器）が設置されている。このリッドは、インストルメントパネルとは別個に設けられた蓋状部材とされるか、又はインストルメントパネルにテアラインによって区画された領域として設定されている。

【0003】

以下に、インストルメントパネルの該領域を前記リッドとした場合の助手席用エアバッグ装置の一般的な構成について、第7図を参照して説明する。第7図は、従来例に係る助手席用エアバッグ装置及びこの助手席用エアバッグ装置のインストルメントパネルへの設置構造を示す断面図である。

【0004】

第7図に示す助手席用エアバッグ装置100は、平面視形状が略長方形形状のコンテナ101と、このコンテナ101内に折り畳まれて配置されたエアバッグ102と、このコンテナ101の上面側の開口を覆っているインストルメントパネル103と、これらのコンテナ101の開口とインストルメントパネル103との間に介在し、且つコンテナ101とインストルメントパネル103とを連結したプレート104と、エアバッグ102を膨張させるガスを発生するための略円柱形のインフレーター105を備えている。

【0005】

インストルメントパネル103の裏側にはテアライン（脆弱部）103aが設けられている。このテアライン103aによって、インストルメントパネル10



3の一部の領域がコンテナ101の該開口を覆うリッドとして区画されている。

【0006】

プレート104は、インストルメントパネル103の該領域に沿ってインストルメントパネル103の裏側に配置されている。このプレート104は、このインストルメントパネル103と一体に設けられており、その周縁部には、コンテナ101をインストルメントパネル103に連結するための連結片104aが設けられている。

【0007】

コンテナ101の底部には半円弧形のインフレータ収容部材106が配置されており、インフレータ105が該収容部材106に係合し、上方から押え部材107が該インフレータ105に被せられる。この押え部材107はコンテナ101の底面に重なるフランジ107aを有しており、このフランジ107aとコンテナ101の底面との間にエアバッグ102のガス導入口の縁部が挟持される。このフランジ107a及び収容部材106はボルトナット等によって一体にコンテナ101に固定される。

【0008】

コンテナ101の該開口の周囲には前述した連結片104aに固定される固定部材108が設けられている。この固定部材108は、該連結片104aの下面に沿ってコンテナ101の外周面から延出した張出部108aを有し、この張出部108aには、ボルト或いはリベット等が挿通される挿通孔（図示略）が設けられている。

【0009】

コンテナ101は、エアバッグ102が折り畳まれて収容された状態で、インストルメントパネル103の裏側から該リッドとしての領域に配置される。そして、コンテナ101の開口周縁部に設けられた固定部材108の張出部108aが連結片104aに重ね合わされ、これらの連結片104aと張出部108aとがボルト108b及びナット108cにより、コンテナ101とインストルメントパネル103とが連結されている。

【0010】



しかしながら、このような助手席用エアバッグ装置 1 0 0 にあっては、コンテナ 1 0 1 は、その開口の周囲に設けられた固定部材 1 0 8 によって、該開口の全周にわたってしっかりと連結片 1 0 4 a に固定されており、インストルメントパネル 1 0 3 に対するコンテナ 1 0 1 の着脱は容易なものではない。特に、ウィンドシールド側（車体前方側）におけるボルト 1 0 8 b とナット 1 0 8 c との連結を解除することは著しく難しい。

#### 【 0 0 1 1 】

このような問題点を解消し、コンテナのインストルメントパネルへの着脱が容易であり、インストルメントパネルが車体に設置された状態においてもコンテナ部分の着脱が可能な助手席用エアバッグ装置及びこの助手席用エアバッグ装置のインストルメントパネルへの設置構造が特開 2 0 0 1 - 3 2 2 5 2 3 号に記載されている。

#### 【 0 0 1 2 】

第 4 図は、特開 2 0 0 1 - 3 2 2 5 2 3 号に係る助手席用エアバッグ装置及びこの助手席用エアバッグ装置のインストルメントパネルへの設置構造を示す助手席用エアバッグ装置の縦断面図、第 5 図はこの助手席用エアバッグ装置のコンテナ部分の上面側からの斜視図、第 6 図はこの助手席用エアバッグ装置のコンテナ部分とインストルメントパネルとの係合関係を示す断面図である。

#### 【 0 0 1 3 】

この助手席用エアバッグ装置 1 は、平面視形状が略長方形形状のコンテナ 2 と、このコンテナ 2 内に折り畳まれて配置されたエアバッグ 3 と、このエアバッグ 3 を膨張させるための略円柱形のインフレーター 4 と、コンテナ 2 の上面側の開口を覆うインストルメントパネル 5 と、これらのコンテナ 2 とインストルメントパネル 5 との間に介在し、且つコンテナ 2 とインストルメントパネル 5 とを連結するプレート 6 を備えている。

#### 【 0 0 1 4 】

インストルメントパネル 5 の裏側にはテアライン 5 a が設けられている。このインストルメントパネル 5 は、コンテナ 2 の一側面に沿って下方に延出した壁状部 7 を備えている。この壁状部 7 には、開口よりなる係合部 8 が設けられている



## 【 0 0 1 5 】

プレート 6 の係合部 8 と重なる部分には、係止部材 1 5 を係合部 8 に挿通するための挿通孔 9 が設けられている。プレート 6 の壁状部 7 と対向する側の縁部からは、コンテナ 2 をインストルメントパネル 5 に連結するための連結片 1 0 が延出している。この連結片 1 0 にスタッドボルト 1 0 a が設けられている。

## 【 0 0 1 6 】

プレート 6 は、テアライン 5 a と同一箇所に開裂部 6 a を有しており、また、このプレート 6 の周縁部付近には、このプレート 6 を扉状に回動させるためのヒンジ部（図示略）が設けられている。これにより、エアバッグ 3 が膨張してこのプレート 6 を介してインストルメントパネル 5 を押圧した際には、このプレート 6 は、インストルメントパネル 5 の前述の領域と共に開裂し、且つインストルメントパネル 5 の該領域と一体に車両室内側へ押し開かれる。

## 【 0 0 1 7 】

コンテナ 2 の底部には半円弧形のインフレータ収容部材 1 1 が配置されており、インフレータ 4 がこの収容部材 1 1 に係合し、上方から押え部材 1 2 がインフレータ 4 に被せられる。この押え部材 1 2 はコンテナ 2 の底面に重なるフランジ 1 2 a を有しており、このフランジ 1 2 a とコンテナ 2 の底面との間にエアバッグ 3 のガス導入口の縁部が挟持される。このフランジ 1 2 a はボルト 1 3 及びナット 1 4 によってコンテナ 2 に固定される。

## 【 0 0 1 8 】

このコンテナ 2 の長手方向に延在する一側辺部には、前述の係合部 8 に係合する係止部材 1 5 が設けられている。この係止部材 1 5 は、該一側辺部に沿ってコンテナ 2 に結合される結合部 1 5 a と、この結合部 1 5 a の上辺からコンテナ 2 の側方に向かって延出して該係合部 8 に挿通され、先端部分が壁状部 7 に沿って下方に屈曲されたフック部 1 5 b とを有している。

## 【 0 0 1 9 】

また、コンテナ 2 の該一側辺部と対向する他方の側辺部には、プレート 6 の連結片 1 0 に固定される固定部材 1 6 が設けられている。この固定部材 1 6 は、該



対向する他方の側辺部に沿ってコンテナ 2 と結合する結合部 16 a と、この結合部 16 a の上辺から該連結片 10 に沿ってコンテナ 2 の側方へ延出した張出部 16 b とを有しており、この張出部 16 b には、連結片 10 のスタッドボルト 10 a が挿通される挿通孔 16 c が設けられている。

#### 【0020】

このコンテナ 2 をインストルメントパネル 5 に設置するにあたっては、まず、係止部材 15 のフック部 15 b を挿通孔 9 及び係合部 8 に挿通して係止部材 15 と係合部 8 とを係合させ、コンテナ 2 の一側辺部を壁状部 7 に沿って配置する。次いで、このコンテナ 2 の壁状部 7 に沿って配置された側辺部と対向する側辺部に設けられた固定部材 16 の張出部 16 b と、プレート 6 の連結片 10 とを、挿通孔 16 c にスタッドボルト 10 a が挿通されるように重ね合わせ、挿通孔 16 c から張出部 16 b の下面側に突き出したスタッドボルト 10 a の先端側からナット 10 b を締め付けて固定部材 16 を連結片 10 に固定する。

#### 【0021】

このように構成された助手席用エアバッグ装置 1 及びその設置構造にあっては、インストルメントパネル 5 にコンテナ 2 を設置するにあたって、コンテナ 2 の車体のウィンドシールド側（車体前方側）に配置された側辺部は、係止部材 15 と係合部 8 とが係合するだけの簡便な構造でインストルメントパネル 5 に取り付けられているため、このコンテナ 2 のインストルメントパネル 5 からの取り外しは、コンテナ 2 の他の側辺部に設けられた固定部材 16 の連結片 10 への固定を解除し、係合部 8 から係止部材 15 を抜き出すことによって容易に行うことができる。この結果、例えば、インストルメントパネルが車体に取り付けられた状態のままで、メンテナンス時等において容易にコンテナの着脱を行うこともできる。

#### 【0022】

##### 【発明が解決しようとする課題】

上記第 4 ～ 6 図の従来の助手席用エアバッグ装置及びその設置構造にあっては、スタッドボルト 10 a を挿通孔 16 c に挿通した後、ナット 10 b を該スタッドボルト 10 a に螺じ込むまでの間に、インストルメントパネル 5 が上方に逃げ



易く、スタッドボルト 1 0 a へのナット締め作業性に若干の不便がある。

【 0 0 2 3 】

本発明は、インストルメントパネルと助手席用エアバッグ装置との連結作業性が極めて良好な助手席用エアバッグ装置及びその設置構造を提供することを目的とする。

【 0 0 2 4 】

【課題を解決するための手段】

本発明の助手席用エアバッグ装置は、少なくとも 1 対の対向辺を有したコンテナと、折り畳まれて該コンテナ内に収容されたエアバッグとを有し、前記 1 対の対向辺のうち的一方にインストルメントパネルへの係止部が設けられ、他方にインストルメントパネルへの固定部が設けられている助手席用エアバッグ装置において、該固定部は、互いに略平行な片体を有しており、該片体同士の間、インストルメントパネル裏面から延出した壁状体が挿入されて連結可能とされていることを特徴とするものである。

【 0 0 2 5 】

また、本発明の助手席用エアバッグ装置の設置構造は、かかる本発明の助手席用エアバッグ装置をインストルメントパネルの裏側に取り付けてなるものである。

【 0 0 2 6 】

かかる助手席用エアバッグ装置及びその設置構造にあつては、片体同士の間、挿入スペースに壁状体を挿入するため、片体と壁状体同士を連結するまでの間でも壁状体の動きが片体によって拘束されるようになる。このため、壁状体と片体との連結作業性が向上する。

【 0 0 2 7 】

本発明では、特に、片体は、前記コンテナの 1 対の対向辺同士を結ぶ方向であつて、且つ前記コンテナから離反する方向に延在していることが好ましい。また、この場合、壁状体は、前記インストルメントパネルの裏面から起立する起立壁と、該起立壁と、該起立壁の起立方向先端からインストルメントパネルと略平行方向且つ前記コンテナから離反する方向に延出した脚片とを有しており、該起立



壁には、一方の前記片体が挿通された開口が設けられており、該脚片が片体同士の間には挿入されていることが好ましい。このように構成した場合には、インストルメントパネルとコンテナとの接離方向の相対的な動きが片体と脚片との係合によりほぼ完全に阻止されるようになり、起立壁と片体との連結作業性が著しく向上する。

【 0 0 2 8 】

この連結は、片体及び脚片を貫くボルトによって行われることが好ましい。このボルトによる連結は、きわめて簡易であり、しかも連結強度も十分に高い。

【 0 0 2 9 】

【発明の実施の形態】

以下に、図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。

【 0 0 3 0 】

第 1 図は、本発明の実施の形態に係る助手席用エアバッグ装置及びこの助手席用エアバッグ装置のインストルメントパネルへの設置構造を示す助手席用エアバッグ装置の縦断面図、第 2 図はこの助手席用エアバッグ装置の取付説明図、第 3 図はこの助手席用エアバッグ装置のコンテナ部分とインストルメントパネルの壁状体との係合関係を示す斜視図である。なお、第 2 図ではエアバッグの図示は省略されている。

【 0 0 3 1 】

この助手席用エアバッグ装置 2 1 は、平面視形状が略長形状のコンテナ 2 2 と、このコンテナ 2 2 内に折り畳まれて配置されたエアバッグ 2 3 と、このエアバッグ 2 3 を膨張させるための略円柱形のインフレーター 2 4 等を備えている。エアバッグ 2 3 は、コンテナ 2 2 の底面に沿うエアバッグ押えプレート 2 3 P を介してコンテナ 2 2 の底部に連結されている。

【 0 0 3 2 】

コンテナ 2 2 の上面側の開口を覆うインストルメントパネル 2 5 の裏面には、該インストルメントパネル 2 5 をコンテナ 2 2 に連結するためのアタッチメント 2 6 が接着等により固着されている。なお、インストルメントパネル 2 5 の裏面には、テアライン 2 5 a が設けられている。



## 【 0 0 3 3 】

このアタッチメント 2 6 は、インストルメントパネル 2 5 の裏面に固着された板状部 2 6 A と、該板状部 2 6 A から立設された壁状体 2 6 B、2 6 C とを有した略  $\pi$  字形断面形状のものである。アタッチメント 2 6 は、インストルメントパネル 2 5 と同様の合成樹脂により構成されている。このアタッチメント 2 6 には、テアライン 2 5 a と重なる位置にスリット 2 6 s が設けられている。インストルメントパネル 2 5 がテアライン 2 5 a に沿って開裂するときには、アタッチメント 2 6 はインストルメントパネル 2 5 と一体的に屈曲変形する。

## 【 0 0 3 4 】

壁状体 2 6 B は、ウィンドシールド側に配置されるものであり、インストルメントパネル 2 5 と略垂直に起立する板形状よりなる。この壁状体 2 6 B には、後述の係止金具 4 0 のフック部 4 1 が挿通される開口 2 7 が設けられている。

## 【 0 0 3 5 】

壁状体 2 6 C は、コンテナ 2 2 を挟んで壁状体 2 6 B と反対側（乗員側）に配置されている。この壁状体 2 6 C は、板状部 2 6 A から略垂直に起立する起立壁 2 6 a と、該起立壁 2 6 a の先端（下端）に連なっており、コンテナ 2 2 から離反する方向に延出した脚片 2 6 b とを有する。起立壁 2 6 a には、次に説明する取付金具 3 0 の上片体 3 1 の挿通用開口 2 8 が設けられている。該開口 2 8 は、上片体 3 1 の上面に沿って開口している。また、脚片 2 6 b には後述のボルト 3 6 の挿通用の開口 2 9 が設けられている。

## 【 0 0 3 6 】

この取付金具 3 0 は、コンテナ 2 2 の乗員側の開口縁部に対し溶接等により固着されている。この取付金具 3 0 は、乗員側に向って延在する、互いに略平行な上片体 3 1 と下片体 3 2 とを有する。下片体 3 2 は 1 枚の板状体である。上片体 3 1 は細帯状であり、下片体 3 2 の上側に複数個配置されている。上片体 3 1 は、車体幅方向に間隔をおいて複数個設けられている。各上片体 3 1 と下片体 3 2 との間隔は同一となっている。

## 【 0 0 3 7 】

各上片体 3 1 と下片体 3 2 には、ボルト 3 6 の挿通用の開口 3 3、3 4 が設け



られている。上片体 3 1 には、開口 3 3 と同軸にナット 3 5 が溶接等により固着されている。なお、ナット 3 5 を省略し、代りに、開口 3 3 に雌ネジを刻設してもよい。

【 0 0 3 8 】

ウィンドシールド側に配置された係止金具 4 0 は、その下部がコンテナ 2 2 に溶接等により固着されている。係止金具 4 0 の上部からは、L 字形爪状のフック部 4 1 が、ウィンドシールド側に向って突設されている。フック部 4 1 と前記上片体 3 1、下片体 3 2 とは、互いに離反する方向に延出している。

【 0 0 3 9 】

コンテナ 2 2 の底部外面に固設されたブラケット 5 0 にスタッドボルト 5 1 が固着されている。このブラケット 5 0 及びスタッドボルト 5 1 を介してコンテナ 2 2 が車体側強度メンバ（図示略）に固定される。

【 0 0 4 0 】

この助手席用エアバッグ装置 2 1 の取付作業について次に説明する。

【 0 0 4 1 】

第 2 図の通り、インストルメントパネル 2 5 が先に車体に取り付けられている。グローブボックス 6 0 は取り外されている。

【 0 0 4 2 】

助手席用エアバッグ装置 2 1 をインストルメントパネル 2 5 の下側に送り込み、まず上片体 3 1 と下片体 3 2 とで脚片 2 6 b を挟むように上片体 3 1 を開口 2 8 に差し込む。次いで、コンテナ 2 2 のウィンドシールド側を押し上げ、係止金具 4 0 を壁状体 2 6 B の内側に沿って押し上げる。壁状体 2 6 B は、ウィンドシールド側に撓み出すように弾性的に変形する。

【 0 0 4 3 】

コンテナ 2 2 を規定高さまで押し上げると、フック部 4 1 が開口 2 7 に入り込み、壁状体 2 6 B は元形状に弾性的に復元する。

【 0 0 4 4 】

次に、スタッドボルト 5 1 を介してブラケット 5 0 を車体側メンバに固定する。これと併せて、ボルト 3 6 を開口 3 4、2 9、3 3 に通してナット 3 5 に螺じ



込み、インストルメントパネル 2 5 とコンテナ 2 2 (取付金具 3 0) とを連結する。第 1 図の符号 6 1 は、このボルト 3 6 を回すための工具を模式的に示している。その後、グローブボックス 6 0 を取り付ける。

【 0 0 4 5 】

このようにしてインストルメントパネル 2 5 の裏側に設置された助手席用エアバッグ装置 2 1 にあっては、車両衝突時にインフレーター 2 4 がガスを噴出し、エアバッグ 2 3 が膨張し、テアライン 2 5 a に沿ってインストルメントパネル 2 5 が開裂し、このインストルメントパネル 2 5 とアタッチメント 2 6 とが一体に押し開かれてエアバッグ 2 3 が車両室内に大きく展開するようになる。

【 0 0 4 6 】

このように構成された助手席用エアバッグ装置 2 1 にあっては、インストルメントパネル 2 5 をコンテナ 2 2 にボルト 3 6 留めするに際し、脚片 2 6 b が上片体 3 1 と下片体 3 2 との間に挿入されているので、ボルト 3 6 の開口 3 4, 2 9, 3 3 への挿入作業が著しく容易である。また、脚片 2 6 b が上片体 3 1 及び下片体 3 2 に挟まれた構成となっているので、インストルメントパネル 2 5 とコンテナ 2 2 との連結強度も十分に高い。

【 0 0 4 7 】

このコンテナ 2 2 をインストルメントパネル 2 5 から取り外すには、グローブボックス 6 0 を外し、次いでボルト 3 6 を外した後、第 2 図とは逆にまずフック部 4 1 を開口 2 7 から離脱させ、次いで上片体 3 1 及び下片体 3 2 を脚片 2 6 b から離脱させる。従って、インストルメントパネルが車体に取り付けられた状態のままで、容易にコンテナ 2 2 の着脱を行うことができる。

【 0 0 4 8 】

なお、前記脚片 2 6 b の開口 2 9 を長孔や大径のルーズホールとしておくことにより、インストルメントパネル 2 5 とコンテナ 2 2 との位置合わせを行うことが可能である。

【 0 0 4 9 】

【発明の効果】

以上詳述した通り、本発明の助手席用エアバッグ装置及びこの助手席用エアバ



ッグ装置の設置構造によると、インストルメントパネルへのコンテナの設置及び取り外しが容易となる。また、インストルメントパネルが車両に設置された状態にある場合であっても、インストルメントパネルを車体から取り外すことなくコンテナの着脱を行うことが可能である。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の実施の形態に係る助手席用エアバッグ装置及びこの助手席用エアバッグ装置の設置構造を示す断面図である。

【図 2】

第 1 図の助手席用エアバッグ装置の取り付け説明図である。

【図 3】

第 1 図の助手席用エアバッグ装置のコンテナとインストルメントパネルの壁状体との係合関係を示す斜視図である。

【図 4】

従来の助手席用エアバッグ装置及び設置構造の断面図である。

【図 5】

第 4 図の助手席用エアバッグ装置のコンテナの斜視図である。

【図 6】

第 4 図の助手席用エアバッグ装置とインストルメントパネルとの係合説明図である。

【図 7】

従来例に係る助手席用エアバッグ装置及びこの助手席用エアバッグ装置の設置構造を示す断面図である。

【符号の説明】

- 2 1 エアバッグ装置
- 2 2 コンテナ
- 2 3 エアバッグ
- 2 4 インフレーター
- 2 5 インストルメントパネル



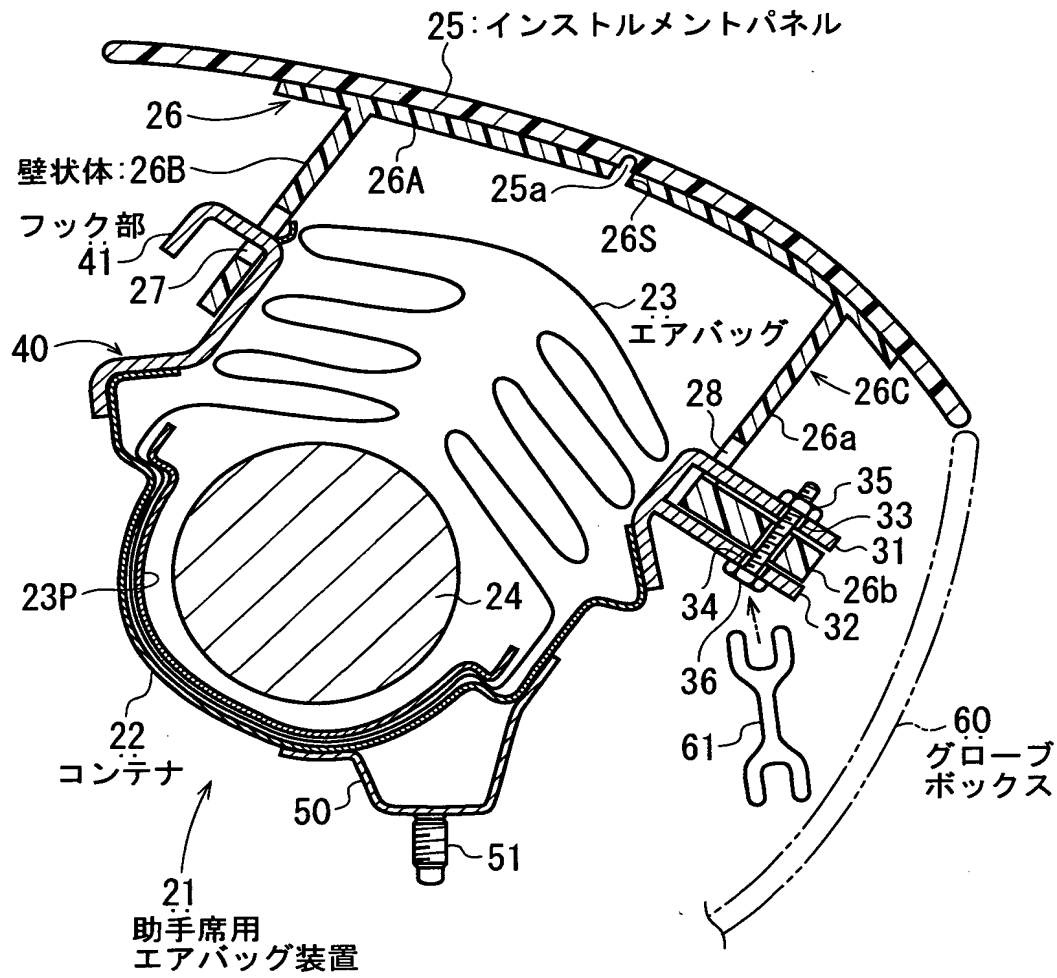
- 2 6    アタッチメント
- 2 6 A   板状部
- 2 6 B, 2 6 C   壁状体
- 2 6 a   起立壁
- 2 6 b   脚片
- 3 0    取付金具
- 3 1    上片体
- 3 2    下片体
- 4 0    係止金具
- 4 1    フック部



【書類名】 図面

【図 1】

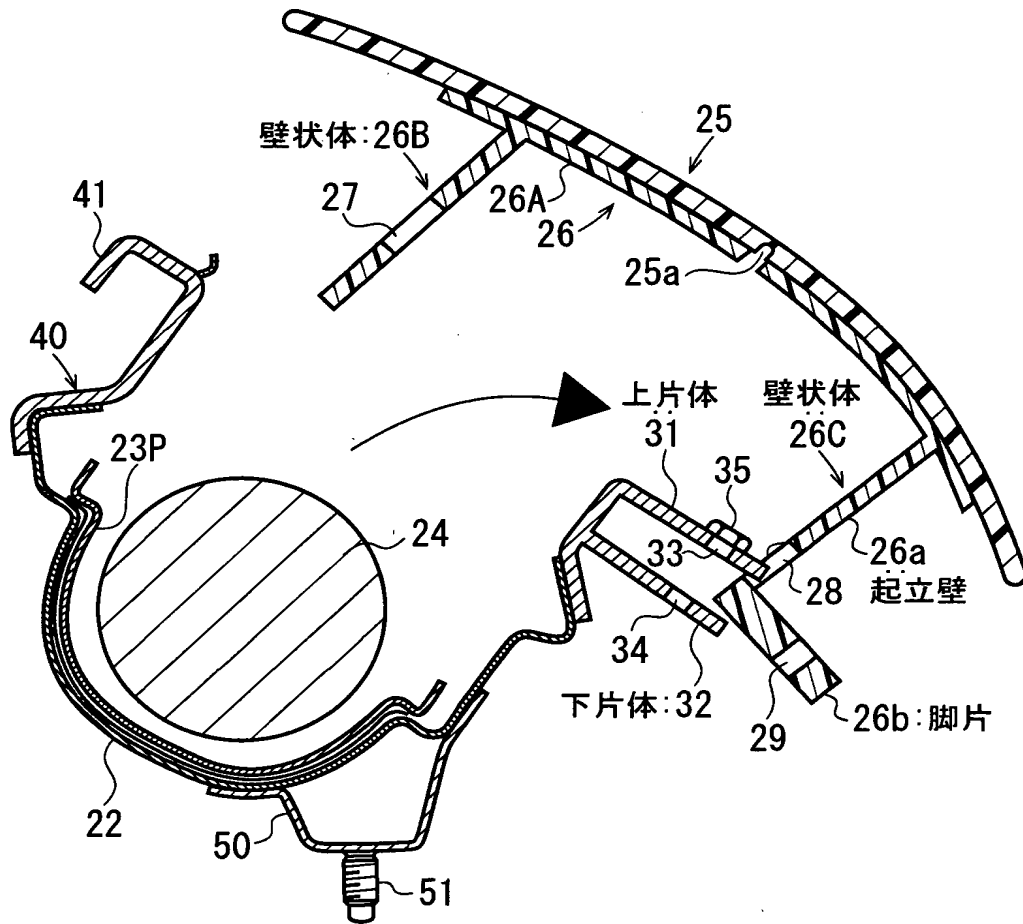
# 第1図





【図 2】

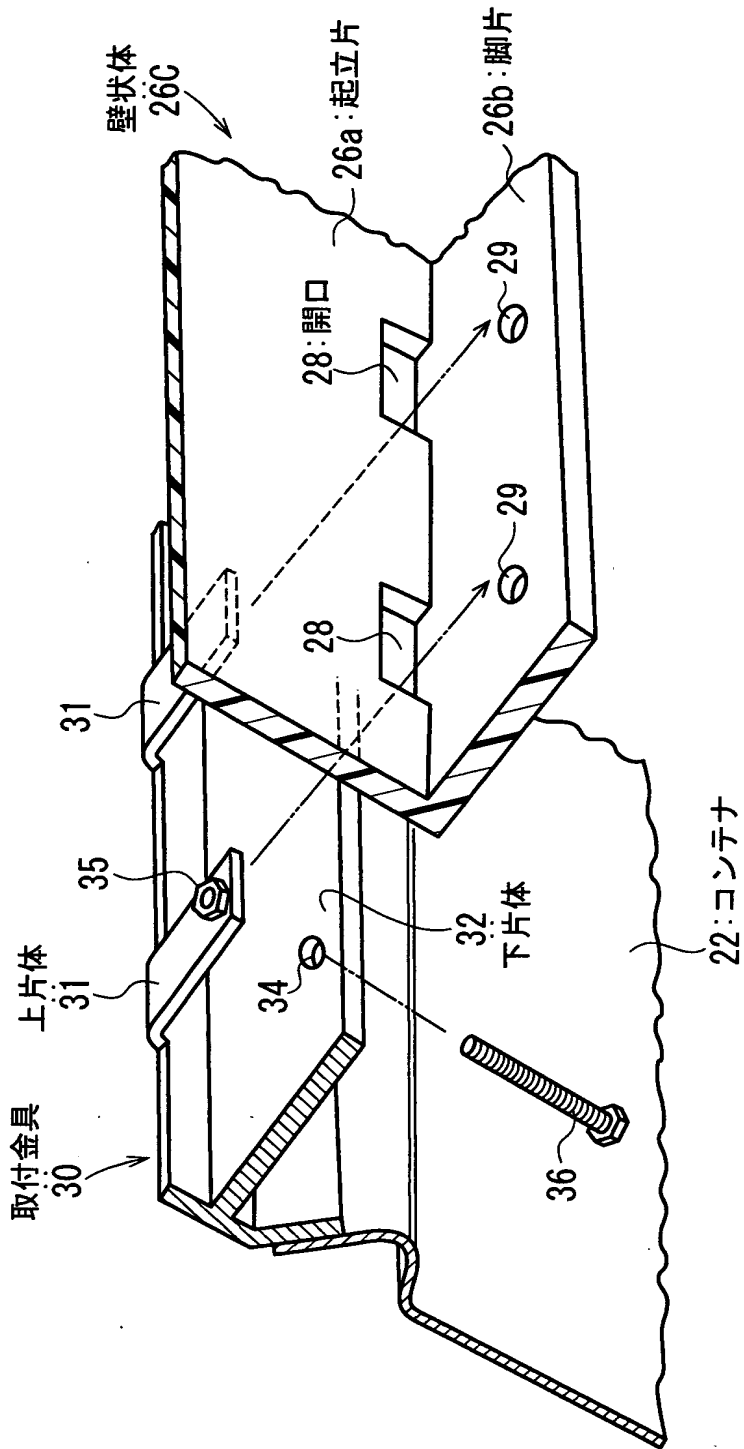
第2図





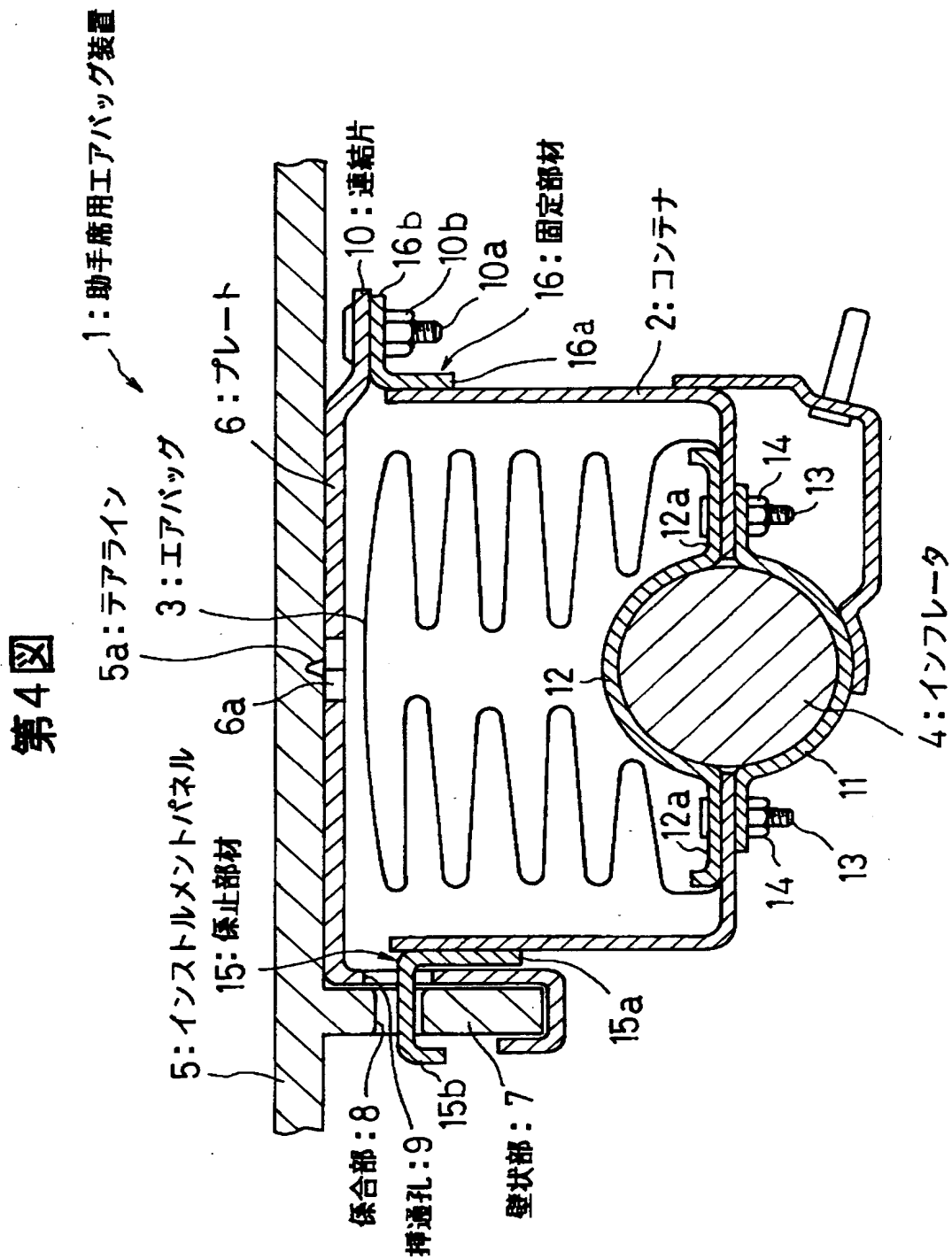
【図3】

第3図



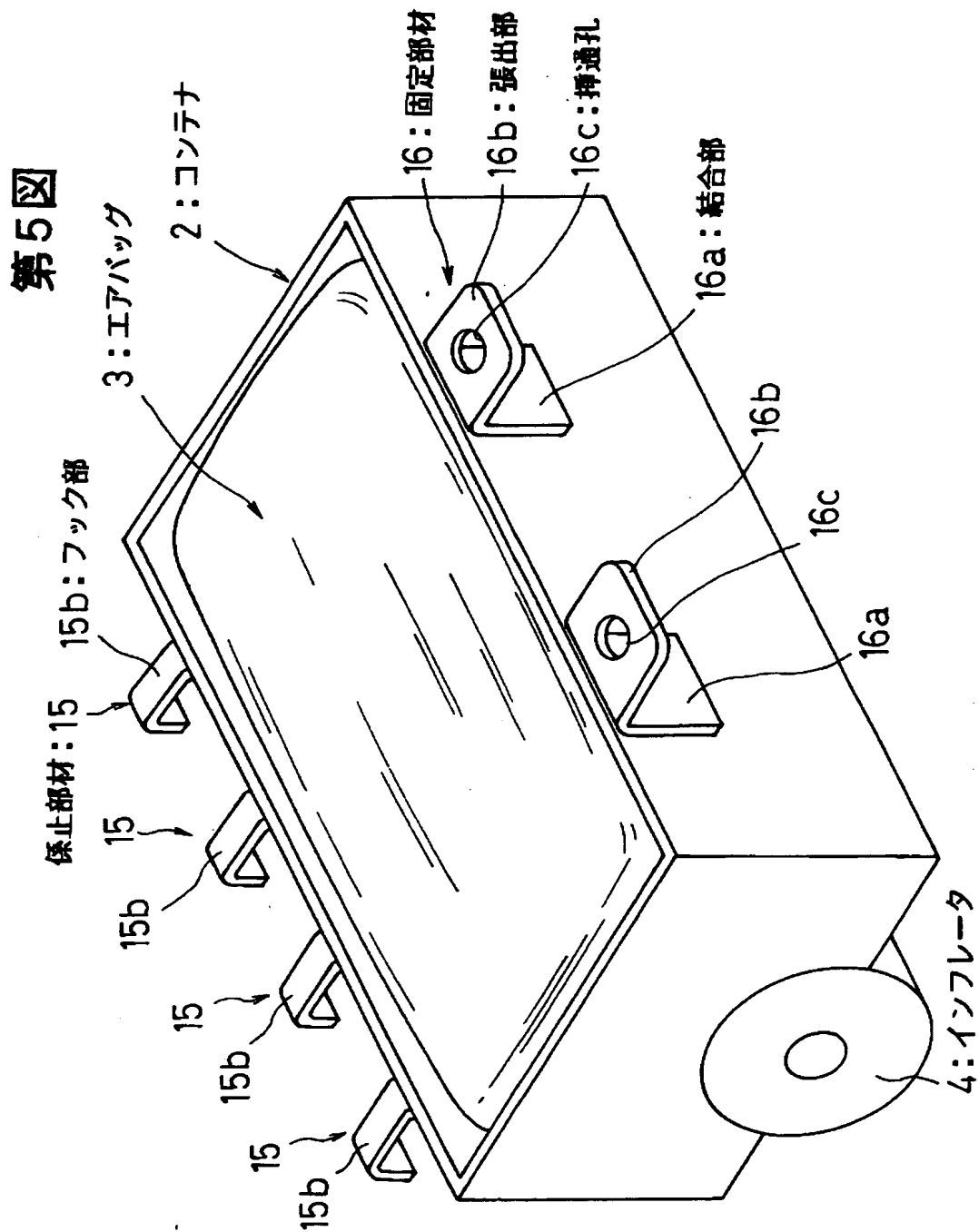


【図4】





【図5】

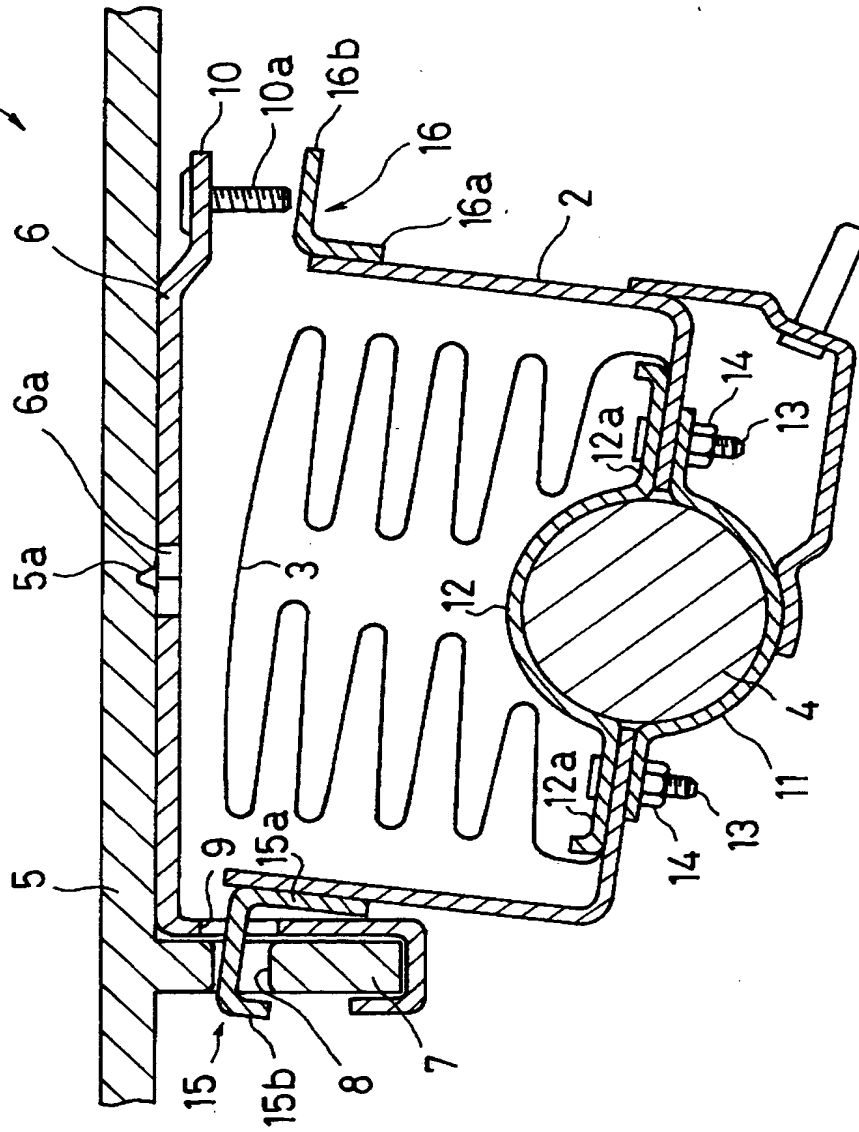




【図6】

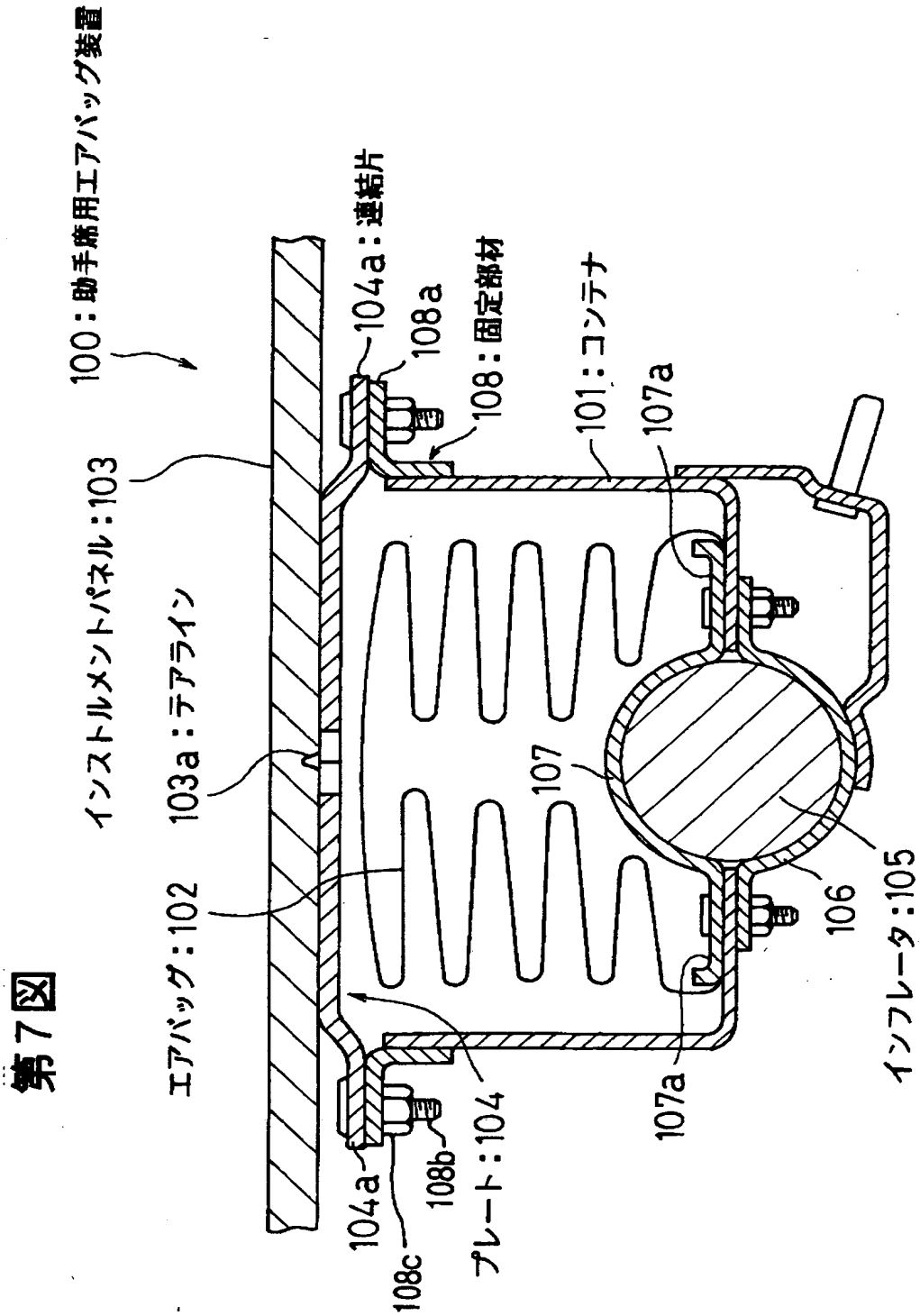
第6図

1:エアバッグ装置





【图 7】





【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 インストルメントパネルの裏側に配置され、このインストルメントパネルへの着脱が容易な助手席用エアバッグ装置及びこの助手席用エアバッグ装置の設置構造を提供する。

【解決手段】 助手席用エアバッグ装置 2 1 を設置する場合、助手席用エアバッグ装置 2 1 をインストルメントパネル 2 5 の下側に送り込み、まず上片体 3 1 と下片体 3 2 とで脚片 2 6 b を挟むように上片体 3 1 を開口 2 8 に差し込む。次いで、コンテナ 2 2 を規定高さまで押し上げ、フック部 4 1 を開口 2 7 に係合させる。次いで、ボルト 3 6 を開口 3 4 , 2 9 , 3 3 に通してナット 3 5 に螺じ込み、インストルメントパネル 2 5 とコンテナ 2 2 とを連結する。

【選択図】 図 1



認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2002-259074
受付番号	50201322519
書類名	特許願
担当官	第八担当上席 0097
作成日	平成14年 9月 5日

<認定情報・付加情報>

【提出日】 平成14年 9月 4日



出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000108591]

1. 変更年月日	1990年 8月 7日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都港区六本木1丁目4番30号
氏 名	タカタ株式会社